

◆ 筆者からのメッセージ

「メディアと人間社会」(六年) 池上 彰

メディアと付き合うために

いまや小学生もスマホを使いこなす時代です。私たち大人より、子どもたちのほうがアプリを達者に使うほどです。

しかし、人生経験の少ない子どもたちは、ネットの世界を飛び交う言説を、そのまま信じてしまいがちです。

「他人の言うことを安易に信じてはいけない」

そんなこと、純真な子どもたちには言いたくないのですが、思わぬ被害を受けてしまうこともある以上、「あふれる情報から自分を守る」方法を伝達していかねければなりません。それが「メディアリテラシー」です。

そのためには、まずは私たちの身の回りにどのような情報伝達手段があるかを気づかせるところから始めたいものです。文字の発明が、私たちの生活をいかに豊かにしたことか。

その一方、文字によって表現されるメッ

セージは、人の心をえぐる刃にもなります。まさに「諸刃の剣」なのです。

私たちは、これまで文字が書かれた書籍やラジオ、テレビなど、伝達のプロによる情報を受け取ってきました。

しかし、インターネットは、情報伝達のプロでなくても人々に情報を伝えることができます。プロとしての訓練を受けていないと、誤った情報や根拠のない情報なども発信しがちです。その結果、多くの人が混乱したり、傷ついたりすることが起きます。ネットで情報を発信することは、大きな責任を伴うのです。

ツイッターやインスタグラムで発信すると、誰が見るかわかりません。いわば渋谷のスクランブル交差点に立って、大声で叫ぶようなものなのです。

いえ、交差点で叫ぶのなら声が届く範囲は数十人でしょうが、ネットに載れば、世界数千万人にも届いてしまうのです。

それだけ多くの人に自分の思いを届けられれば、素晴らしいことではありますが、危

ういことでもあります。

この教材をベースに、ラジオで伝達することの意味、テレビの優れた点と問題のある点、ネットの功罪など、それぞれのメデイ

アの役割のプラスとマイナスを考えさせてもらえればと思います。

それは結局、先生であるあなたの人間的な成長につながると思います。

メディアと人間社会

池上 彰

私たち人間は、一人では生きられません。だれもが、社会の中で、他の人と情報をやり取りしながら生きています。たがいに情報のやり取りを行う動物はいまですが、さまざまなメデイアを使って高度な情報伝達を行うのは、人間だけではない。人間は、「思いや考えを伝え合いたい」「社会がどうなっているのかを知りたい」という欲求をもっています。そのような欲求が、メデイアを発達させ、高度な情報化社会を作ってきたのです。

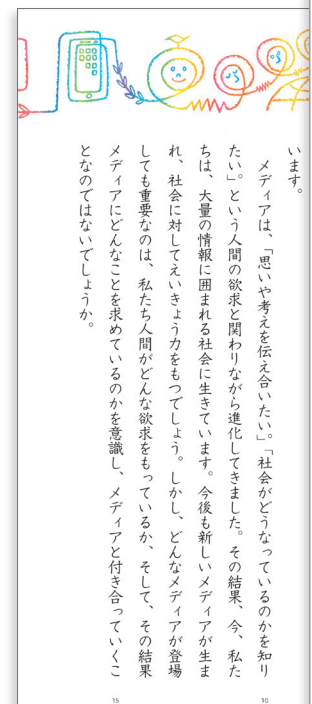
情報を伝えるための手段として、古くから用いられてきたのは、文字です。文字のない時代には、遠くの相手と思いや考えを伝え合いたいと思っても、難しいものでした。文字の誕生によって、時間や空間をこえて情報を伝えることができるようになったのです。伝えたい内容を文字にして相手に届けば、手紙となります。おもしろい物語や話を文章にして残せば、本となります。社会の出来事を書いて知らせれば、新聞になります。しかし、文字を使った情報伝達は、書いた



▲ 6年 p190

誕生
欲求

▲ 6年 p192



メデイアは、「思いや考えを伝え合いたい」「社会がどうなっているのかを知りたい」という人間の欲求と関わりながら進化してきました。その結果、今、私たちは、大量の情報を囲まれる社会に生きています。今後も新しいメデイアが登場し、社会に対していきよう力をもつでしょう。しかし、どんなメデイアが登場しても重要なのは、私たち人間がどんな欲求をもっているか、そして、その結果メデイアにどんなことを求めているのかを意識し、メデイアと付き合っていくことなのではないでしょうか。



池上さんが「メディアと人間社会」について語っている動画を見ることができます。

いけがみ あきら
池上 彰
1950年、長野県生まれ。ジャーナリスト。73年、NHK入局。報道記者や番組キャスターなどを務め、2005年フリーに。『伝える力』(PHPビジネス新書)、『速すぎるニュースをゆっくり解説します』(文春文庫)など著書多数。